

2 目標達成計画

作成日: 平成 31 年 2 月 5 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	25	日々、暮らしの状況を把握しているが、ここ1、2ヶ月で入居者の心身状況の変化があり、職員の対応が追いついていない部分がある。	入居者一人ひとりの過ごし方を尊重して対応していくが、その日その日の入居者の心身の状態を把握し、記録に残し、職員間で情報を共有する。	通常の記録だけではなく、いつもと違う様子や今日はとても調子が良い等、注意する所だけではなく、良い所も記載することで職員間で情報を共有する。	6か月
2	33	重度化してきている入居者の対応について不安が大きく、特に夜間の状態変化にどう対応していくか不明確な部分がある。(看取り対象となった方の対応については不安はあるが、そこまで慌てることは少ない。)	入居者の現病を知り、どういう事が起こり得る可能性があるのかを考え、対応方法(症状の観察ポイント・バイタルサイン・連絡方法等)について、各職員が理解する。	現病や処方薬の影響等があり、医師の判断もあるため、一概に対応を決めることは困難な部分であるが、起こり得る症状について理解を深めると共に、対応方法について可視化して、動揺することなく入居者の対応ができるようにする。また、会議や研修でも意見を出せるようにしていく。	12か月
3	53	居場所の工夫は心がけているが、居室の活用が多く、廊下ソファを利用している方が一部の方に限られている。	ホールで長時間過ごしていても傾眠がちな方がいるため、声をかけて居室での休息のほか、場所を廊下ソファ等に場所を変えて、ゆっくり過ごすことができるようにする。	ソファに洗濯物が置いたままになることが多いため、片付け、座っても良いと思ってもらえるようにする。また、マナー化を防ぎ、入居者同士や入居者と職員の関わりの場としても活用していけるように、職員間で声がけしながらソファを活用していく。	12か月
4					か月
5					か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。